

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792200016		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム なでしこ 1階		
所在地	福島県岩瀬郡鏡石町高久田136番1		
自己評価作成日	令和元年9月5日	評価結果市町村受理日	令和2年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和1年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の立地は、旧道沿いで分かりやすく、周辺には民家があり、地域の方々との関わりがあり、楽しく安全で安心した生活を送ることができます。周辺には果樹園農家が多く、おいしい果物がいつでも手に入ります。事業所には畑があり、近所の方が野菜の苗を持ってきて下さったり、肥料のやり方や育て方を教えて下さり、地域に密着しているホームです。ボランティアの方々も徐々に増えてきています。鏡石町の汗流会の方が傾聴ボランティアで来所されたり、童謡を歌う会で来て下さったりと、利用者様がとても喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 職員会議では全員から意見や要望を聞く機会を設け、さらに個別面談や職員へのアンケートの実施などを通じ、風通しの良い職場環境づくりが行われている。また、「職員が楽しく仕事をすることが、ケアの向上につながる」との共通認識が図られ、職員は仕事にやりがいを感じながらケアに従事しており、利用者にとっても居心地が良い雰囲気につながっている。
 2. 町内会に加入し、隣接住宅との回覧板の受渡しができる。また、近くの農家から事業所の畑の耕作指導を受けるなど、地域住民との普段の交流が図られている。さらに、毎月の傾聴ボランティアなど様々なボランティアを受け入れ、町からは子ども110番の指定も受けている。また、祭りの神輿の軒の花飾り作成の依頼を受け、利用者とともに作成し提供しているなど、地域との交流が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所の見やすい所に掲示し毎朝の申し送り時に唱和している。	理念は、各ユニットの事務室や通路に掲示し、毎朝申し送り時に唱和している。また、今年9月にスタッフ会議において管理者からの提案により職員全員で話し合い、理念の見直しを行っている。職員は、利用者の穏やかな生活を支援するという理念の実現に向けて、利用者の声に耳を傾け要望や思いを大切にすべくケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が野菜の苗や肥料を持ってきて、育て方を教えて下さる。地域のボランティアの方が歌の慰問に来所されたり、傾聴ボランティアの方も来て、利用者様の話し相手になってくださっている。	町内会に加入し、隣家との回覧板などの受け渡しを行っている。年2回の地域の美化活動では、利用者と一緒に参加し周囲の清掃を行っている。また、近くの農家の方が事業所の畑の耕作方法を教えに来てくれるなど近隣住民と日常的な交流を図っている。秋祭りでは、子ども神輿の立ち寄り先になっており、太鼓の演奏を披露してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方が来て下さった時などに、認知症への理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を行い、会議の中で出た意見は、スタッフ全員に周知し、サービスの向上に活かすよう努力している。	運営推進会議は、町役場職員、区長、民生委員、家族代表の他に、利用者代表と「町の環境を考える会」会長(任意団体)が委員となって、年6回開催している。委員会では、ヒヤリハットや行事などの説明の後、委員から様々な意見が出されており、出された意見はスタッフ会議やケース会議で職員へ伝達し、運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	会議などの際、現状を丁寧に説明し、協力関係を築けるよう努めている。	町役場職員は、運営推進会議の委員になっており事業所の実情等に精通してもらっている。また、日頃から何かあれば役場に出かけて報告や相談を行っている。毎月、町の社会福祉協議会主催の会議に地域包括支援センター・民生委員・ボランティア団体・福祉施設、役場担当者とともに管理者が参加し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や外部研修に参加し、その内容をスタッフ会議等で伝達し、身体拘束をしないケアを実践している。	採用した職員に対し、身体拘束に関する理解度アンケートを実施し、その後の教育や指導に活かしている。また、管理者、主任、各ユニットの代表職員で構成する身体拘束適正化委員会を年4回開催し、毎回、身体拘束チェックシートに基づき日頃のケアを点検している。その結果をスタッフ会議で伝えるとともに、普段のケアの中で互いに注意を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士言葉・動作に気をつけ、常に情報を交換しながら注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修に参加したスタッフがスタッフ会議等でその内容を報告し、活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者やケアマネが十分に説明し、理解を頂いている。その中で質問等にも対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来た時などに、意見を聴いたりしている。また、その内容は伝達ノートにて、周知、反映している。	利用者の意見や要望は、日頃の関わりの中で話を聞き、対応可能なものはすぐに対応している。家族の意見は、面会に来た時に聞くようにしている。応じた職員が、その内容を伝達ノートに記録し、各職員が押印のうえ確認し情報共有を図りながら、運営やケアに反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等にスタッフ全員に発言してもらい、何でも相談できるような雰囲気を作っている。	スタッフ会議において、職員全員に一人ずつ意見を述べる機会を設けている。また、管理者は、年2回、職員と個別面談を行い、さらに、管理者が職員へのアンケートを独自に実施し、意見や要望の把握に努めている。職員の提案によりホットプレートを購入し利用者と一緒におやつ作りを行うなど、出された職員の意見は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得時や研修に参加する機会がある。資格取得時には補助制度があり、就業意欲につながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修があり、積極的に参加している。また、外部研修にもシフト調整を行い、できるだけ参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所と月1回会議を開き、情報を得ている。また、グループホーム協議会に加入し、研修や情報交換会に参加し、交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に、本人やご家族様より意見や希望を聞き、安心した生活を送って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を聞き、小さな事でも報告し、不安なく安心した生活を送って頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時に、ご家族様からの希望などに応じられるよう、他のサービス利用も含め対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔で安心して過ごして頂けるよう声掛けをし、出来る事は手伝って頂き、本当の家庭の様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に毎月お便りで近況をお伝えしたり、面会時に本人様の本心を伝えたりと絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方やお知り合いの方が、来所されることもあり、ゆっくりと過ごして頂けるよう、雰囲気配慮している。	家族の協力を得て行きつけの理美容店、墓参りへの外出や実家への外泊など、なじみの関係が途切れないように支援している。毎年、家族とともに温泉に出かけ宿泊してくる利用者もいる。さらに、家族に手紙や葉書を書く利用者がおり、投函を手伝うなど関係が継続するよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声掛けを通して、利用者様同士が関わりが持てるよう働きかけている。また、利用者様同士の関係性等職員間で情報を共有している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に来所して頂けるような環境作りや声掛けをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	安心して生活が送られるよう、希望や意向を把握し、申し送りやカンファレンスで共有している。一人ひとりの意向に沿ったケアを行っている。	利用者全員が会話が可能なため、普段の関わりや会話の中から思いの把握に努めている。また、入居時のアセスメントや面会時に家族等から得た情報、日頃の言動や態度などを基に、ケース会議で職員で話し合い、利用者の思いや真意の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から情報収集し、日々の会話から何を求めているかを聞き取り、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の様子や状態などを、申し送りで情報を共有し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議等で利用者様、ご家族様からの希望や要望を、職員同士で話し合い、利用者様に合った計画書を作成している。	ケアプランは、ケアマネジャーが担当者から利用者の状況等を聞き取り原案を作成し、ケース会議で職員で話し合っ作成している。また、モニタリングは介護記録等に基づき利用者の様子や変化などを確認しながら、職員全員で検討している。また、ケアプランやモニタリングは全職員が理解しておく必要があるため、1階と2階のユニット合同で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の現状把握を十分に行い、日々の変化を見逃さず記録し、情報を共有しながら介護計画書の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の現状に即したサービスが受けられるよう、他事業所のサービスも検討しながら支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	管理者を中心に地域資源の把握に努め、一人ひとりに合った資源が活用できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様とご家族様の希望するかかりつけ医と訪問診療を選択して頂いている。受診時には生活の様子等をお伝えしている。	入居時にかかりつけ医又は協力医による訪問診療を選択してもらっている。受診に家族が付き添う場合は、本人の状況を連絡票で伝えている。往診の場合は毎月のお便りで結果を家族に伝えている。精神科など専門医も主治医の紹介状で受診しており、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週医療連携の看護師が訪問し、健康状態を診ている。その記録をご家族様に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの状況をお伝えし、定期的に面会に行き状況を確認する。退院が決まったら情報を頂き(看護サマリー)、ホームでの生活上の注意点等確認に繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面にて確認し、重度化した場合は再度書面にて確認している。意向に変化が見られた場合は、その都度対応している。	入居時に重度化指針に基づき事業所のできる対応を説明するとともに家族から看取りについての事前確認を取っている。また、状況変化時には再度説明し、希望を書面で取っている。外部から講師を招き看取り時のケアについて職員研修にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等をみて各自確認している。また、定期的に救命訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施している。年2回総合訓練を行い、うち1回は消防署立会のもと訓練を行なっている。	消防署立ち会いの総合訓練のほか毎月通報、夜間想定、2階非常口の滑り台を使った訓練、法人立ち会いの訓練など条件を変えて実施している。米や缶詰、レトルト食品を備蓄し、アイラップ(耐熱ポリ袋)を使った炊き出し訓練など実践的な訓練をしている。開所後3年、まだ近隣の方と協力関係までは築けていない。	運営推進会議開催時に災害訓練を行うなど近隣の方の協力を得られる関係づくりが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が声掛けや言葉遣いに気をつけ、十分配慮している。	部屋は鍵がかかるようになっており、職員が入室するときはロック、声掛けをしている。また、家族から本人が嫌がる注意点や今まで使ってきた言葉などを聞き会話に活かしている。職員は聞き上手に徹するよう話し合い誇りを損ねないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や、衣類等をご自分の好みを選んで頂くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や居室で過ごされる時間等、一人ひとりの希望で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や毎日の更衣時には、ご自分の好みの物を選んで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事はチルド食の為、その他に好きな物を聞きながら出来る限り対応している。	法人の方針でチルド食を取り入れているが利用者の好みを取り入れたおかずも作っている。ホットプレートを使ったおやつ作りや切り干し大根づくりなど一緒に作業を楽しんでいる。また、昼食はテーブルを一緒に囲むなどおいしく食べる雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察し、記録している。栄養状態が維持出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方は口腔ケアは出来ているが、自立している方に声掛けをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的音声掛けをし、誘導して排泄のパターンを把握している。	排泄自立している方が多く、本人から排泄状況を報告してもらいチェック表に記載している。支援を必要とする方には声をかけトイレに誘導し、職員は見えないところで待機する等プライバシーや羞恥心に留意した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用いてパターンを把握し、水分摂取も声掛けしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めず、希望に応じて入浴している。入浴剤を何種類も準備し、利用者様の好みで対応している。	週2回以上を目標に支援をしている。入浴時間も利用者の希望を聞いて反映している。入浴拒否がある利用者には対応職員を変えたり、医師に変装し入浴を促すなど工夫している。また、入浴剤を選んでもらったりゆず湯など入浴を楽しめる取り組みをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を利用者様に合わせて調整し、安眠出来るよう支援している。リネン交換もチェック表を作り定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも確認できるようにしている。変化が見られるようなときには主治医と連絡が取れる様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日洗濯物を畳んで頂いている。また、ラジオ体操や口腔体操を行っている。天気の良い日には外に出て日光浴をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのオレンジカフェに毎月出かける支援をしている。一緒に買物に出掛けたり、本人の希望に沿った支援をしている。	地域包括支援センター主催のオレンジカフェや法人主催のエコカフェに定期的に参加する他本人の希望で買物に出掛けることもある。また、事業所の行事で花見や紅葉狩り、外出に出かけている。さらに、家族の協力を得てお墓参りや一時帰宅をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っているが、利用者様の希望で買物に出掛ける時には、お金を渡し、ご自分で支払って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話が来た時には本人様に取次いでいる。また、電話連絡したいと言われる時にはいつでも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が快適に過ごして頂ける様に、温度調節を行ったり、窓を開けたりして工夫している。季節ごとにホールの装飾を替えたりして季節感を味わって頂いている。	共用空間は広く、動線にも配慮し安全に生活できる環境となっている。利用者と共に製作した季節が感じられる作品を展示し、温かい雰囲気を作り出している。エアコン、加湿器などで空調を行い、居心地よい空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルごとに気の合った方たちに座って頂いたり、ソファに座って頂いたりして工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各居室には鍵がありプライバシーが守られている。入所の際には、慣れ親しんだ物を持参して頂いたり、環境作りをしている。居室にはその方に合った装飾をしたり、心地よく過ごして頂いている。	入居時に馴染みの家具(筆筒、テーブル、椅子など)、テレビ、冷蔵庫、家族の写真を持ち込み落ち着いた部屋となっている。利用者の中には運動器具を持ち込み毎日決まった時間に体力づくりに励んだり、製作した作品を飾り楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、やりたいことを見出して少しでも自立した生活が送られるよう工夫している。		